

- 8) 私語、動作等によって不正な連絡を試みることを。
- 9) 答案用紙の破棄、偽名の記入および答案用紙を持ち出すこと。
- 10) 試験終了後、答案に加筆・修正などの変更を加えること。
- 11) 監督員の指示に従わず、試験の公正を損なう行為を行い、試験を混乱させること。
- 12) レポートや論文の作成にあたり、盗用あるいは剽窃（自己剽窃を含む）を行うこと。

※論文考査（レポート）は、当該科目における学習の到達度を確認するための試験であるため、特に担当教員から指示が無い限り全てを個人で作成すること。グループ学習の一環として論文考査（レポート）の作成に係る調査、分析、内容の検討等を他人と共同して行いたい場合には、共同が認められる範囲を必ず事前に担当教員に確認し、論文（レポート）にその詳細を明記すること。

(2) 処分の通知・公表

処分については、これを本人および保証人に通知する。また、不正行為および処分内容は掲示にて公表する。

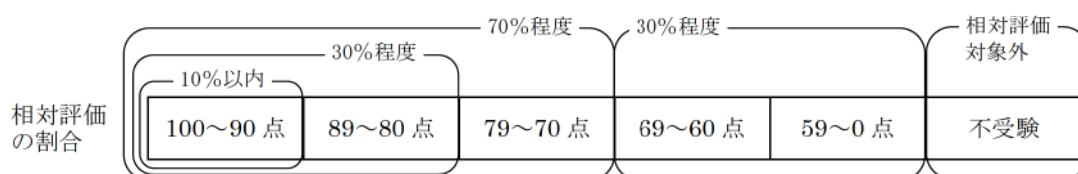
Ⅱ. 成 績

選択履修した科目の単位は、授業時間数の3分の2以上出席し、春学期試験、秋学期試験、臨時試験、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果とを総合して、合格点に達した場合に与えられる。

総合評価のつけ方については各科目のシラバスや教場での説明で確認すること。

1. 成績通知書には、その学期までの成績を記載する。
2. 成績発表は、春学期科目は9月上旬、秋学期科目と通年科目は3月上旬に行う。
3. 成績は、以下のように表記し、点数は発表しない。また、外国語科目や30名未満の少人数制の科目等を除き相対評価を行う原則であり、評価の割合は、概ね以下のとおりである。

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点	不受験
成績証明書の表記	A+	A	B	C	表示されない	
成績通知書の表記	A+	A	B	C	F	H
合否	合 格				不合格	



「TOEFL-ITP®」の成績については、上述の相対評価の割合に基づき成績が表示され、2年次以降の必修英語科目である「英語 Theme-Based Studies」について以下の通りコースが振り分けられる。

- A+, A : 上位コース（週1回2単位「English Seminars」）
 B, C, F : 下位コース（週2回2単位「English Language Course」）
 H : 不受験※、自動的に下位コースを履修

※ 自己受験によりTOEFL ITP®またはTOEFL iBT®のスコアを取得し、所定の期間中に提出をすることでそのスコアをもとに成績評価を受けることが可能である。

4. GPAについて

(1) 計算式

科目の成績評価に対してGrade Pointと呼ばれる換算値（A⁺は4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、不合格は0点）が決められている。

それぞれの「科目の単位数」と「成績評価のGrade Point」の積の総和を「総登録単位数」で割って、スコア化したものがGPA (Grade Point Average)である。

総登録単位数には、不合格科目の単位も含まれる。

これを式で表すと、次のようになる。

$$\frac{(A^+ \text{修得単位数} \times 4) + (A \text{修得単位数} \times 3) + (B \text{修得単位数} \times 2) + (C \text{修得単位数} \times 1) + (\text{不合格単位数} \times 0)}{\text{総登録単位数 (不合格科目を含む)}}$$

※GPAは、小数第2位まで表示する。（小数第3位は、四捨五入とする。）

(2) 対象科目

卒業算入対象科目として登録した全ての科目が対象となる。

(3) GPAの通知

GPAは、成績通知書に記載される。また、MyWasedaの成績照会画面からも確認ができる。専門科目のGPAとは政治学、経済学、分析手法、方法論の科目を対象としたもので、3年卒業制度及び政治経済学院オーナーズプログラムの出願条件の一つである。

(4) GPAの証明

GPA対象科目の成績およびGPAが記載された「GPA証明書」を発行する。

なお「成績証明書」には、GPAは記載されない。